

## 美術－2

### 「学校・アート・出会いプロジェクト」実施メニュー【基本案】

\* 内容は、事前打合せを行い各学校の状況に応じて変更を加えていきます。

#### ■ 基本情報

ジャンル	美術・工芸		
対象となる学年	小学校 4、5、6年生		
対象となる科目（例）	図工、美術、その他（総合学習等）		
実施可能地域	南丹（京丹波町、亀岡方面）、乙訓、山城 ※オンラインの場合は府内全域		
実施回数	2～3回	1回の 所要時間	90分
実施可能人数	2クラス程度		
実施団体	団体名 一般社団法人タッチョナ 代表者名 小島 剛 担当者名 小島 剛		
連絡先所在地等	〒550-0012 大阪市西区立売堀1丁目4-12 立売堀スクエアビル8F-34 TEL/090-4308-5744（小島） FAX/06-6672-0577 E-mail/kojima6912@gmail.com		
団体、講師のプロフィール	2010年から大阪市内の小学校を対象にした現代芸術の体験プログラムをスタート。2012年から京都府「学校・アート・出会いプロジェクト」を受託。2015年に一般社団法人タッチョナ」を設立。2017年以降はこの事業に加えて、継続的に文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」受託している。そのほか、地域のアート・センターや施設での子ども向けプログラムに加えて、市民を対象にしたアート・ワークショッププログラムなどを企画・コーディネートしている。 <a href="http://touchonart.net">http://touchonart.net</a>		
実施可能な時期（期間）	現状では特に制限は有りません。		

## ■ 実施内容

対象となるプログラム	体験
テーマ (タイトル)	身の回りの〇〇図鑑を作ろう。(講師：野原万里絵)
趣旨・目標 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りにあるものを丁寧に観察し、作品化していくことで表現する造形的な創造活動の基礎的な能力を育てます。また写実的な表現の中にも講師が指導するイラスト的なアプローチを学ぶことで児童の興味を導くだけでなく、創意工夫する楽しさを引き出します。</li> <li>・また、個々の作品の成果をお互いに評価しあうことに加えて、「図鑑」というテーマを設けることで、個々が持つ様々な学校生活の記憶をクラスやグループ単位で共有しあうことで、グループ活動としての成果を見ることが出来ます。</li> <li>・卒業に向けたクラス単位での作品作りとして実施したケースがあります。</li> </ul>
全体計画 (案)	<p>(ワークショップの一例)</p> <p>[1日目]教室などにある身の回りのものをよく観察し、スケッチする。一つずつ色鉛筆で色を塗っていく(講師が色鉛筆の使い方を指導)→切り取っておく</p> <p>[2日目]1日目に引き続き、教室や学校内にあるものの形を描き(トレースしたり、影をなぞったりする)、一つずつ色を付けていく。→切り取っておく</p> <p>[3日目]「私の身の回り図鑑」の作成 1, 2回目で作ったものをノートに貼って自分だけの図鑑を作成する。 グループで図鑑を作成しても可。</p> <div data-bbox="1074 965 1430 1200" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1074 1223 1430 1487" data-label="Image"> </div> <p>※昨年度、コロナ禍において小学校5年生を対象にオンライン授業として実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド映像とリアルタイム授業を混ぜながら、講師の手元をクローズアップすることで細かい動きや書き方の指導を行うことに加え、またカメラで児童の制作の様子を講師に伝えることで、より学びの深い効果的な授業にすることも可能です。</li> </ul>
実施場所	教室や図工室など
講師等	講師1人 講師名：野原万里絵+アシスタント1～2名 スタッフ1人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業も可能です。(ネットワーク回線や設備等はタチヨナで用意します。)</li> </ul>

## 講師プロフィール：野原万里絵（美術家）

2011年 京都市立芸術大学 美術学部美術科 油画専攻 卒業

2012年 Royal College of Art (London) 交換留学

2013年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科絵画専攻 油画 修了

絵画を描く際の感性的かつ曖昧な制作過程に関心を持ち、自ら制作した定規や型紙などの道具を用いた絵画作品を制作・発表している。また、自身が道具で絵を描く行為に加えて、ワークショップを日本各地で開催し、協働制作による作品も発表。他者とのコミュニケーションを通して、絵画の新たな可能性を模索している。

<http://marienohara.info/>